

## テレホン法話原稿

第11組 本正寺 寛 隼人

### 聴聞を大事に

『蓮如上人御一代記聞書』に「いかに不信なりとも、聴聞を心に入れて申さば、御慈悲にて候うあいだ、信をうべきなり。ただ、仏法は、聴聞にきわまることなり」と書かれています。

真宗では「聞法」を大事にしております。「聞法」は仏法を聞くということです。みなさんは最近お手次寺や別院さんへ行かれて法話を聞かれましたか？本堂でのお勤めの後には必ず法話を聞かれると思います。法話をされる方は色々な書物を読んだり「聞法」をして自身の身に響いたことをみなさんに伝える為にお話されています。

ただ、私は法話は、何となく聞くだけでも良いのではないかと考えています。何となく聞いているうちに我がこととして捉えられるようになっていくのではないのでしょうか。みなさんは「教化」という言葉を聞いたことがあると思います。「教化」とは教えられて内側から化けるということです。法話を聞いているうちに、「あれ、これ私の事じゃない？」と思うときがあると思います。そのような時を自分自身に気づかされる、「化ける」ことになるのだと私は考えます。私は自分自身に気づかされた時を大事にしております。そのようなことを「聴聞」というのだと思います。「聴聞」というのは、都合の良いことも都合の悪いことも我がことだと聞かされることだと思います。

私はこれまで、他者から「あなたは人の事ばかりいうけど自分はどうなの？」と幾度も指摘されたことがあります。その時は、自分のことを棚の上にあげ、他人の事ばかりいつているときでありました。この言葉を言って頂く度に自己中心的な私がいるんだと考えさせられてきました。

私は、この言葉で私自身の事を家族以外の方から指摘された時、なにも言葉が出なくなりその場で立ち止まるだけでありました。その言葉がきっかけで少しは自身の事を考えるようになりました。

法話もそうですが、日常の何気ないことから自身のことを知らされることも「聴聞」ということなのではないかと思っています。

私はこれからも「聴聞」を大事にしていきたいと思っています。みなさんにもおすすめいたします。